



【学校教育ビジョン】 自ら学び、判断し、行動する金明っ子の育成 【めざす児童像】 よく考え、自分から動く子 ・自ら学びに向かう子 ・やさしい子 自分で考え行動する子 ・たくましい子									
(主体的・対話的で深い学びを追究し、「わかった！できた！」を大切にした授業をめざす) (生徒指導の4つの視点を生かした教育活動を推進する・自己存在感の感受・共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供・安全安心な風土の醸成) (挑戦する意欲、最後まで粘り強くやり抜く力を育む)									

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	「わかった！できた！」を大切にした授業づくり	・自立した学び手を目指して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。	研究主任	・児童は自立した学び手のイメージがつかめていない。目指す自立した学び手の姿を具体的に示していく必要がある。	【成果指標】 ・学び方のめあてをたて、次につながる振り返りができる。	自分で学び方のめあてをたて、振り返ることができた回答した児童が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査	A	A	学校生活アンケート(12月)において、「学び方のめあてをたて、それをふりかえることができたか」という質問項目に対して、肯定的な回答をした児童は、98%であった。継続的に全校で実践できている。各学年に応じて教師が学び方の視点をより具体的に示したことが質の向上にも結びついている。今後はより具体的場面を想起した振り返りに力を入れていきたい。
	基礎・基本の定着	・計算チャレンジで、計算力の定着を図る。	教務主任	・児童は課題に真面目に取り組むが、全体的に基礎・基本の定着が弱い。練習を積み重ねて力と自信をつける必要がある。	【成果指標】 ・児童が計算の基礎・基本を身に付けている。	計算チャレンジ(1年2年は、計算3分プリント)の正答率80%を超える児童が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	計算チャレンジ・計算3分プリント) (7月 12月)	A	A	正答率が80%を超えた児童は95.4%であった。該当学年で習得すべき基礎基本の問題を毎月繰り返して行った。さらに個別に指導を行い確実な定着につなげた。3学期も継続して行い、各学年でつけるべき力がつくように引き続き取り組む。
②生徒指導	居心地のよい学校・学級づくり	・児童の、児童による、児童のための学校づくりを推進する。	児童会	児童は、授業だけでなく、行事や特別活動等の活動にも意欲的に取り組んでいる。今後は、児童がより創造的・自治的な学校づくりを運営していけるよう、教師が見守り、バックアップしていく。	【満足度指標】 ・児童が「学校は楽しい」と感じている。	「学校は楽しい」と思う児童が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査	A	A	金明っ子会議で話し合った提案について、1学期にできなかったことを実践した。じゃんけん大会や縦割り給食など、全校で関わる機会が増えた。また登校時の服装について、児童の意見を基に話し合い、自己決定する機会をもつことができ、児童自身でルールを考えることができた。児童会目標の達成に向けて、実践・振り返りを基に、今後は取組をさらに充実させたい。
	いじめ問題への組織的な対応	・いじめ問題に、組織的かつ協働的に対応し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。	生徒指導主事	人間関係や個々の役割が固定化されている面があり、それに悩んでいる児童もいる。児童の思いを受け止め真摯に向き合うこと、情報共有や記録について体制を常に整えておく必要がある。	【満足度指標】 いじめの未然防止・早期発見・早期対応への取り組みが、組織的・協働的かつ日常的に行われている。	アンケートや面談の実施が、いじめ問題の対応に役立っていると回答した教職員が11人中 A 10人以上 B 8～9人 C 6～7人 D 5人以下	1・2学期末に、教職員を対象にアンケート調査	A	A	教職員アンケートでは、肯定的な回答が100%であった。電子媒体の生活アンケートの運用が課題になっていたため、共有や検証を児童理解の会で行うようにした。それをふまえて、組織的に個別面談等の対応をとることができるようになってきた。今後はこれまで別途紙媒体で行ってきた1年生でも、同様に電子媒体を使用する。次年度に向けて、より効果的な運用を計画したい。
③キャリア教育・進路指導	自己肯定感・自己有用感の向上	・個々の目標を持たせ、振り返りの場を大切に。自己の変容や成長に気づかせる。(自己評価、キャリアパスポートの活用)	キャリア教育	・日々の学校生活や行事の中で自分の目標を大切に。目標について達成度などを振り返ることができている。しかし、全体的に自己肯定感・自己有用感が低いことが課題となっている。客観的に自己評価をし、自信や次の目標・意欲につなげられる力を育てたい。	【成果指標】 児童は自分に良さがあると感じている。	「自分には良いところがある」と思う児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童アンケート (7月 11月)	A	A	学校生活アンケート(12月)において、「あなたは、じぶんには良いところがあるとおもいますか」という質問項目に対して、肯定的な回答をした児童は、全体で90%であった。準肯定的な回答をした児童や、「どちらかというとそう思わない」と答えた児童に対して、学校生活や行事の中で、目標を立てて、振り返る場を大切に。自己変容に気づかせる指導はしてきたが、実感に至っていない児童が一部いる。笑顔集会や人権週間を通して、自他の良さに気づかせる機会とし、日常的に個々の良さに触れる声掛けをしていく。
④保健管理	健康に対する意識・実践力の向上	・計画的な指導により、健康的な生活習慣を身に付け、健康にすごそうとする意識・実践力の向上を図る。	保健主事 養護教諭	・メディアのルールについて、正しい知識・技能を身に付けるとともに、自ら実践しようとする意識や態度を育てる必要がある。	【成果指標】 児童が自ら生活習慣を改善しようとしている。	メディアのルールの改善について自分なりに考えて取り組むことができたと答えた児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1・2学期末に児童を対象としたアンケート調査	A	A	「使用時間を自分で決め、守ることができたか」の質問に、89%の児童が肯定的な回答をしている。1学期と比較しても、現状を維持していると考えられるが、守れているかどうかは主観に頼っている部分がある。児童の自覚を促すために、メディアの使用時間を、可視化できる方策をとっていきたい。
	体力・運動能力の向上	・1校1プランの取組等により体力・運動能力の向上を図る。	体育	昨年度の体力テストでは、20mシャトルランの記録が県平均を下回った学年があり、個人差も大きい。本校の伝統である金明マラソンの継続で、児童のさらなる体力向上を図りたい。	【成果指数】 20mシャトルランの記録が向上するように努めている。	20mシャトルランの記録が6月に比べて上がった児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	6月、11月に4年生以上の児童を対象に計測	-	B	11月の計測では、6月に比べ記録が向上した児童が71.1%であった。今年度は、本校伝統の金明マラソンにおいて、タイムトライアルを実施したり、「3周チャレンジ」に取り組んだりした。来年度以降も児童が前向きな気持ちで体力向上を図れるような取組を継続する。
⑤安全指導	計画的な安全教育と避難訓練の実施	どのような行動をとることが安全なのか、自ら考え行動できる力を高めるために、訓練の前後に考える時間を設定する。	教頭	・火災、地震、不審者等から身を守る知識や技能を身に付けるとともに、自ら考え行動できる力を育てる必要がある。	【努力指標】 ・児童が、生活、交通、災害に関する様々な危険の要因や事故等の防止について理解し、進んで安全な行動ができるよう努めている。	自分の身は自分で守ろうと努めている児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	6月、11月に4年生以上の児童を対象にアンケート調査	A	A	「災害や不審者などから身を守る安全な行動を避難訓練から学び、生活に役立てようとしたか」という質問に対して、上位回答100%であった。自ら考え行動しようとする意識の向上を図るため、火災避難訓練前の事前学習や不審者避難訓練の警察官による指導等を計画的に行うことができた。訓練前の安全教育は意識を高めるための有効な手立てと捉え、来年度も継続実施し、主体性を育みたい。
⑥特別支援教育	個に応じた支援の充実	・配慮が必要な児童についての情報・効果的な支援のあり方を共有し、個に応じた支援を行う。	特別支援教育 コーディネーター	・定期的に校内支援委員会を開き、専門相談員につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれの児童について、さらに継続して支援の方法を探っていく必要がある。	【努力指標】 専門相談を招いた支援委員会、具体的な支援の方法を決めて、実践しようとしている。	専門相談を招いた支援委員会等で決めた支援方法の実践に努めたという教職員が11人中 A 9人以上 B 7～8人 C 5～6人 D 4人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査	A	A	校内支援委員会において、支援を要する児童の困り感や、担任及び教科担当の指導に対する悩みや考えを共有する機会をとることができ、保護者の了解も得て、個に応じた指導を実践することができた。より専門的な見地からアドバイスを得るために、次年度以降は、専門相談を積極的に活用したい。
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化	効率的に業務にあたるために、部会や主任会の計画的設定や放課後の時間を確保する。	教頭	・部会や主任会を計画的に設定したり、日課の工夫により放課後の時間を確保したりして、多忙感を払拭する手立てを講じる必要がある。	【努力指標】 見通しを持った業務遂行に努めている。	見通しを持った業務遂行に努めている教職員が11人中 A 9人以上 B 7～8人 C 5～6人 D 4人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査	B	A	年間を通して、日課の工夫による放課後時間の確保による計画的な業務の遂行と多忙感の払拭に努めた。1学期に反省として挙げられた部会開催日を見越した各担当の計画的な準備も月予定に明示することで意識が高まっている。多岐にわたる業務量は膨大であるため、今後も放課後時間の確保や会議時間の厳守等を徹底したい。
⑧研修	若手教員の育成	日常的OJTを意識して、若手教員相互による学び合いを行う。	教頭	・若手教員が6名おり、その内、Ⅲ期の教員が3名いる。若手研修のリーダーを中心に日常的なOJTを進め、相互に学び合い、指導力の向上を図る。全教職員で育成のための指導・助言にあたる。	【努力指標】 若手教員相互による学び合いや全教職員の指導・助言に努めている。	日常的なOJTを意識して若手教員育成に努めている教職員が11人中 A 9人以上 B 7～8人 C 5～6人 D 4人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査	A	A	職員室には親和的な雰囲気があり、授業づくり、教材研究についての会話が自然となされている。若手育成のためには分からないことを分からないと言える。失敗を恐れず挑戦しようとする姿を皆で認め合う心理的安全性が何より基盤となる。来年度も関係の良い職場づくり、活力ある学校づくりに努める。
⑨保護者、地域との連携	開かれた学校づくり	CSメンバーと情報共有し、学校と地域の要望を相互につなぐ場としてCSを機能させる。	教頭	・昨年度はCSGに協力を仰ぎ、学校の要望に十分応えていただいている。今年度はCSが学校と地域をつなぐ場として、双方向による情報交換を行う必要がある。	【努力指標】 学校運営協議会は学校と地域をつなぐ場として情報交換に努めている。	学校運営協議会が学校と地域をつなぐ場として双方の情報交換に努めていると感じている教職員が11人中 A 9人以上 B 7～8人 C 5～6人 D 4人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査	B	B	CSGとの連絡を密にし、授業支援としてまちの先生を活用したり、育友会行事での地区の獅子舞披露における連絡調整を依頼したりすること等を通して、地域とつながることに努めた。地域の要望を聞いたものの実現するまでには至らなかったのでも来年度は引継ぎ事項として計画したい。
⑩教育環境整備	児童の意欲を高める環境デザイン	・児童が主体的に学びを進めることができる環境づくりに努める。	教務主任 研究主任	・昨年度は、教室以外の選択肢を使用する児童があまりいなかった。そこで特別教室を有効に活用し、自立した学びをより進める環境を整えてい必要がある。	【努力指標】 自立した学びを進めることができる環境づくりに努めている。	環境づくりに努めた教職員(机等の配置やヒントカード等)が11人中 A 8人以上 B 6～7人 C 4～5人 D 3人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査	B	A	教職員アンケートでは肯定的な回答が100%であった。単元構想シートを基にして、自立した学び手、育成できる授業づくりを意識した。単元に入る前に教科のねらいと児童の実態について考え、それに適した環境(教師の支援、学びの場、学ぶ相手)整備をすることができた。職員全員で学びを委ねる授業を公開し合ったのも効果的だった。3学期も単元構想を大切にしてい

学校関係者評価	8月28日(水)CSの会にて ①基礎基本は大切である。友だちと相談したりみんなで考えたりする授業はとてもよい。 ②児童のアウトプットする機会を多く作っていくことが大切である。 ③学校、保護者、地域のそれぞれの立場で学校の方針をどう捉えているか理解し、その上で意見を出すことが大切である。特に育友会は意見を出すとい。 1月22日(水)CSの会にて ①授業づくりでは、学力の保障を確実に行うことが大切である。 ②メディアとうまつきあえるよう声掛けや取り組みを続けていくことが大切である。 ③伝統である金明マラソンで体力を養ってほしい。 ④地域との連携の面ではCSOとして今後も学校の要望に応えていきたい。学校も地域の要望を受け、見直しをもって学習に取り入れたい。
---------	---